



報道関係各位

大和ハウス工業株式会社
代表取締役社長 大野直竹
大阪市北区梅田 3-3-5

「CSRレポート 2015」・「環境報告書 2015」発行



「CSR レポート 2015」(PDF)



「環境報告書 2015」(PDF)

大和ハウス工業株式会社（本社：大阪市、社長：大野直竹）は、7月31日、「CSRレポート2015」および「環境報告書2015」を発行しました。

CSRレポートは、グローバルスタンダードに則したCSR活動の情報を公開するべく、2015年度より社会的責任に関する国際標準化機構の規格であるISO26000の「中核主題」ならびに「課題」に則した報告体系へと改訂しました。

従来どおり、CSR報告書の報告原則であるGRIガイドライン第4版^{*1}を参考とし、当社グループが重要と考える取り組み（マテリアリティ情報）を特集として報告するとともに、創業60周年を記念し、原点となる創業から現在のサステナビリティ経営へ至るまでの「60年の歩み」も紹介しています。

あわせて、当社の環境への取り組みを抜粋し、詳細データ等を加えて再編集した「環境報告書2015」を発行しました。また今秋を目処に順次、「グループ企業CSRレポート」や「CSRレポート英語版」も発行する予定^{*2}です。

なお、いずれのレポートも、昨年度に引き続き、PDF形式にてWeb上のみで公開します。

※1. 非営利団体「GRI（グローバル・レポート・イニシアチブ）」が作るサステナビリティレポートのガイドライン。

※2. グループ企業CSRレポートは9月末、CSRレポート英語版は10月末公開予定です。

●ポイント

1. 「ア・ス・フ・カ・ケ・ツ・ノ」事業^{*3}を通じた社会への貢献と、ステークホルダーとの共創共生について、特に重要度の高い項目を特集で報告
2. 昨年度までのステークホルダーごとの活動報告から、ISO26000の「課題」に則した報告体系へ改訂
3. 「環境報告書2015」では、環境行動計画の進捗を詳細データと事例を交えて報告。CO₂関連情報については独立した第三者保証を付与

※3. 「安全・安心」「スピード・ストック」「福祉」「環境」「健康」「通信」「農業」の頭文字をとった当社の造語。

1. 「ア・ス・フ・カ・ケ・ツ・ノ」事業を通じた社会への貢献と、ステークホルダーとの共創共生について、特に重要度の高い項目を特集で報告（CSR レポート P.19～36）

当社グループが重要と考える取り組み（マテリアリティ情報）を特集として報告しています。

当社グループが重要と考える取り組み		主な実績
特集1 事業を通じた社会 貢献「フ（福祉）」	超高齢社会に求められる 新基準に対応した医療・介 護施設の提案	開発特化型ヘルスケア専門ファンドを活用した安全・安 心の先進メンタルホスピタルを開発
特集2 事業を通じた社会 貢献「カ（環境）」	エネルギー“ゼロ”の住宅・ 建築・街づくり	・ZEH ^{*4} を上回る「スマ・エコ ゼロエナジー」を発売 ・桑名市でZET ^{*4} 第2弾となるスマートシティを開発 ・富山市でZEB ^{*4} を実現するオフィスビルが完成
	時代を担う 風と太陽と水 ～再生可能エネルギーに よる発電事業～ ^{*5}	当社使用電力のネット・ゼロ化を実現 (当社電力使用量 ≤ グループ再生エネルギー発電量)
特集3 ステークホルダー との共創共生 「従業員」	多様な人財が活躍できる 職場環境の整備	「育キャリアサポート制度」 ^{*6} をスタート 営業・技術部門の女性社員比率が向上 ・営業 1.2% (2006年3月末) → 7.1% ・技術 5.5% (2006年3月末) → 11.0%
特集4 ステークホルダー との共創共生 「地域市民」	「大いなる和」の精神で日 本の財産を次代に継承	吉野山の桜保全活動 ・累計 25 回・539 名参加 SAKURA PROJECT の継続展開 ・累計 130 カ所・37,831 名参加

※4.ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）、ZET（ネット・ゼロ・エネルギー・タウン）、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）。創り出されるエネルギーが消費されるエネルギーよりも多く、エネルギー消費が正味（ネット）でゼロとなる住宅（ハウス）、街（タウン）、建物（ビル）のこと。

※5.環境報告書のみに掲載。

※6.2015年4月より導入した、育児・子育てとキャリア構築の両立をサポートする制度。

2. 昨々までのステークホルダーごとの活動報告から、ISO26000の「課題」に則した報告体系へ改訂（CSR レポート P.44～124）

当社グループでは、2011年度より、ISO26000を参考に独自の「CSR自己評価指標」を用いてCSRマネジメントを進めています。今年度より、ISO26000の「中核主題」に沿った報告体系とすることで、国際社会の共通認識である「社会課題」への対応状況をよりわかりやすく紹介しています。

<2014年度の主な実績>

組織統治	・コーポレートガバナンスガイドラインを策定 ・業務執行機能と監督機能のバランスを備えたハイブリッド型ボードを構成
人権	・人権啓発ビジョンを策定
労働慣行	・女性社員比率：13.6%（2006年3月末）→ 18.4% ・女性管理職は71名（全従業員の2.1%） ・「なでしこ銘柄」に初めて選定
公正な事業慣行	・人権、労働安全、環境保全等を規定した「CSR調達ガイドライン」を制定
消費者課題	・戸建住宅オーナー様満足度 96.3%（前年度比 0.3ポイント増）
コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	・地域共生活動件数 2,046 件（前年度比 62.6%増） ・ボランティア休暇取得率 14.0%（前年度比 6.7%増）

3. 「環境報告書 2015」では、環境行動計画の進捗を詳細データと事例を交えて報告。CO₂関連情報については独立した第三者保証を付与

<2014 年度の主な実績>

- ・ 全国 7 ヶ所でスマートシティを開発
- ・ 新築住宅・建築における「スマート&エコ商品」の比率は、38.5%（前年度比 0.6 ポイント増）
- ・ 当社電力使用量に対する当社グループの再生可能エネルギー発電量の割合は、113%（前年度は 40%）
- ・ 全事業における太陽光発電システムの建設実績は、319 メガワット（前年度比 1.6 倍）
- ・ 売上高あたりの CO₂排出量は、2005 年度比 43.6%削減（3 ヶ年目標を 1 年前倒しで達成）
- ・ 新築住宅・建築に伴う植栽による緑被面積は、全事業の合計で 76.1 万 m²（東京ドーム 16 個分）

<環境報告書の特長>

- ・ 統合的思考を取り入れ、環境テーマごとに事業上のリスク認識とその対応を報告
 - ・ CO₂関連情報について独立した第三者保証を付与し、信頼性・透明性を向上
（第三者保証のカバー率：スコープ 1^{※7}：100%、スコープ 2^{※7}：100%、スコープ 3^{※7}：65%）
 - ・ 環境データの算定方法や対象範囲等の情報開示を充実し、読者の比較可能性を向上
- ※7.スコープ 1：自社の直接排出。スコープ 2：自社のエネルギー使用による間接排出。
スコープ 3：自社以外の間接排出

【閲覧方法について】

今年度も資源保護の観点から冊子として配布せず、Web サイトへアクセス・ダウンロードして閲覧いただく方法を採用しました。

■ CSR レポート 2015

<http://www.daiwahouse.co.jp/csr/library/report/index.html>


■ 環境報告書 2015

<http://www.daiwahouse.co.jp/eco/report/index.html>

■ レポートに対するアンケート

http://www.daiwahouse.co.jp/csr/regist_qa.asp

【未来を、つなごう We Build ECO】



私たちは、“未来を見据えた自主的な環境行動によって、常に社会をリードし、現在と未来をつないでいきたい”との思いのもと、すべての企業活動を通じて、地球温暖化防止や資源循環などの環境活動に取り組んでまいります。

以 上

お問い合わせ先		
広報企画室	広報グループ	06-6342-1381
	東京広報グループ	03-5214-2112